

活動名	団体名	国際交流ひらかわの風の会
地域でできる先駆的多文化共生事業「外国人留学生家族の子育て支援」等による親日留学生の育成	地域	山口県山口市
	代表者	会長 中村 幸士郎
	支援金額	30万円
活動概要		
<p>マツダ財団の活動支援により、平成 22 年度以降、留学生等と地域住民の交流活動が一層展開することができたことに、感謝いたします。</p> <p>平成 24 年度での主な活動として、新たに展開した子育て支援事業では、乳幼児をもつ留学生家族と地域住民の親子連れを対象にこども部会を立ち上げ、「KidsClubかぜ」教室事業を実施し、諸活動を展開しました。</p> <p>また、山口県の魅力を体験した山口ファンをつくる事業として、萩往還道を歩くツアーや秋吉台エコミュージアムや循環型エコトイレの現地視察など自然、歴史、文化を体験するバスツアーを開催した。継続として日本文化の原点「留学生のための農耕文化体験事業」を一年間を通じて実施するとともに、地域の恒例行事への留学生等の参加醸成を図った。</p> <p>◆実施時期 平成 24 年 5 月から平成 25 年 3 月末まで 山口市平川地域を中心に県内</p> <p>◆参加人数 一行事当たり 50 人前後(内訳人数は、活動の具体的内容に記載) 参加総人員延:1,150 名</p>		



乳幼児をもつ留学生家族と地域住民の親子連れ対象の「KidsClubかぜ」教室事業



「KidsClubかぜ」教室は、地域における多文化共生活動の重要な役割を担っている



山口県歴史文化自然環境体験ツアー



萩往還道を歩くツアー

◆実施に伴う効果

- ・風の会の先駆的な活動が地域・社会に与える影響は大きく、地域住民の留学生に対する見方に変化が生じている。KidsClub かぜ教室、農耕文化交流、盆踊り、あゆつかみなど地域住民と一緒に活動を行う活動では、言葉の壁を越えて本音の交流が始まった。
- ・また、山口大学からも風の会に対して期待が大きく、活動に参加した留学生が、帰国して口コミで、都市部の大学より自然が豊かで土地の人たちとの交流ができる山口(大学)の魅力が広がっていることが、東アジアを中心に山口大学への留学希望が増加傾向にあることで判明している。
- ・留学生たちにとって忘れられない交流体験や日本文化の素晴らしさを満喫したようで、親日留学生が増えています。
- ・地域においては、風の会の活動が刺激となって、地元平川小・平川中学校において、留学生交流授業などを積極的に取り組むようになりました。
- ・留学生家族から、平川地域が本当の意味で住みやすさを実感できるようになったとの声が多数あった。
- ・地域の人たちと留学生家族が、スーパーやコンビニなどで気軽に声掛けができる情景が、いつもの情景になりつつある。一方、留学生家族が見知らない地域の人たちにも話しかけるようになってきた。
- ・留学生の自転車等のマナーが段々よくなってきているように感じる。
- ・山口大学留学生支援室との連携により、新規留学生生活説明会のカリキュラムに、必ず風の会の年間活動資料を提供していただくなど、大学側の理解度が深まった。
- ・多文化共生地域として、モデル的な位置づけとなりつつある。
- ・地区の交流センター職員が、当会の活動等に理解されるようになり、当会の諸行事に参加されたり、積極的なお手伝いをいただいている。
- ・山口大学国際・地域連携課との意見交換会などで、発言力が高まってきた。
- ・イスラム系留学生家族から信頼され、4 回目の出産サポート(医師との医療通訳、妊婦の送迎等)を行った。

◆苦勞した点

- ・モスLEM留学生家族とモスLEM以外の留学生の料理づくりにおいて、ハラル材料を別に仕入れるなど、特別に気をつけているが、これも多文化共生社会を理解するうえで重要なことと理解している。
- ・東アジア留学生たちは金銭面で苦しいため、行事参加の負担金を安価や無料にするなどしていることから、当会スタッフ(会費とは別)の負担も増大となってきているが、マツダ財団の支援により、多少なりとも助かっている。また、留学生たちの参加機運の醸成となっている。今後も引き続き、負担軽減を図りたい。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・外国人が 300 人以上居住している同地区において、多文化共生社会は避けて通れない中で、山口大学との連携が益々重要になってきている。留学生たちの居住環境においても、高額家賃で悩むことも多く、地区内のアパート経営者の中で、留学生への負担軽減を理解される経営者らとの交流会を設置し、短期(数か月程度)の居住が可能で、しかも安価(敷金、礼金無し、家賃 2 万円以下)で居住できるアパートを紹介できるシステムを大学側と確立していきたい。大学側からの要望でもある。
- ・地域でできる留学生家族の生活支援対策や育児支援対策等の重要性が理解できた。
- ・平成 24 年度事業から実施した留学生と地域の親と幼児を対象の子ども交流事業「KidsClub かぜ教室」を実施した成果は、留学生家族だけでなく地域にとっても大きな意味があった。
- ・留学生たちを交えて、課題を整理し、関係機関等へ提言していけるようになりたい。
- ・帰国留学生とのネットワークを構築し、グローバルに、末永く国際理解や国際交流が図れるようにしていくことが大事であり、本音の交流を本格実施したい。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・地域における青少年(大学生、地域住民)に、国際理解を一層推進し、留学生との交流の中心的な役割を担わせ、多文化共生のモデル的な地域を目指す。
- ・平成 23 年度からスタートした風の会学生会部会も定着し、大学生による企画運営による活動が定着してきた。
- ・子育て支援における KidsClub かぜ教室事業は、ブログなどの紹介から、反響が大きく、マスコミだけでなく視察も多く、地域における多文化共生活動の重要な役割を担う。
- ・山口市内の大学、留学生、地域住民、関係機関などから、風の会の活動が浸透したことで、活動に理解の輪が広がり知名度が高まった。そうしたことで、子育て交流関係では、他の子育て団体から、お手伝いしたいとの声もかかるなど、コラボレーション活動を平成 25 年度から実施する。
- ・これらの諸活動に参加した留学生たちから、帰国前に、多くの思い出と日本・日本人に対する意識の変化(好意的)があったことから、親日留学生を育成していくことを主眼に今後も活動していきたいし、地域における国際交流の重要性を再認識した。
- ・こうした活動をご理解いただいているマツダ財団には、この支援が大変価値のあるものと思っている。今後活動も飛躍的な展開ができたことに感謝申し上げます。
なお、今回は申請していませんが、平成 26 年度事業分の申請に向けて、新たな事業展開を考えているところです。